

使用語種と、新しいことばの用法

遠 藤 織 枝

1-1 はじめに

職場の女性たちの話しことばの語彙面での実態を知りたいと考え、今回は2つの方面からの分析を行った。1つは、使用する語種が、どのような分布になっているか、であり、もう1つは、乱れているとかくずれているとかいわれる新しい語形や用法の取り入れ方である。93年秋に調査した資料がまだ完全に整理できていないので、その一部文字化を終えたものをもとに分析を行った結果を報告する。対象とした話者と場面は以下のとおりである。話者はすべて記号で記すが、インフォーマントの女性を〔 〕、その場面の談話の参加者の男性を< >で、女性を《 》で、それぞれかこむ。

I 朝の場面

- ア〔HO〕：<YA>（40代、〔HO〕の上司）、《KI》（20代、〔HO〕の同僚）<KU>（30代、〔HO〕の同僚）。出張旅費の清算についての話し合い
- イ〔HI〕：<FU>（50代）、<MA>（40代）（いずれも〔HI〕の同僚）。高校の教員室の始業前の雑談。
- ウ〔TM〕：<OZ>（30代、研究所所員）。資料整理のためにコンピューターを操作しながらの話し合い
- エ〔WA〕：《RI》（20代）、<SM>（30代）、<IM>（40代）（いずれも〔WA〕の同僚）。会社内で企画したバレエ公演の切符の売れ行きについての話し合い
- オ〔HA〕：電話で仕事の打ち合わせ3件。
- カ〔SO〕：《IR》（40代、中央官庁課長）。《IR》が〔SO〕を訪問し、審議会委員の就任を要請している。

Ⅱ 休憩の場面

- キ〔HI〕：〈HR〉（30代、〔HI〕の同僚）、〈ME〉（60代、〔HI〕の前同僚）。退職した〈ME〉が久しぶりに旧職場を訪ねて話し合う。
- ク〔SO〕：《OT》（30代、〔SO〕の事務補助員）、〔SO〕に研究の指導を受けているところ。
- ケ〔HO〕：《SA》（20代、〔HO〕の同僚）。食事しながら、〈SA〉の家族、〔HO〕の子供について話し合っている。
- コ〔SI〕：《OE》（20代、〔SI〕の友人）。〔SI〕が数日前帰ってきた海外旅行の土産話をしている。
- サ〔TM〕：〈OZ〉・《NO》（20代、研究所アルバイト）。前日の〈NO〉の誕生パーティーとその食べ物について話し合っている。
- シ〔HA〕：《AK》（50代、〔HA〕の上司）。読書について雑談している。

Ⅲ 会議の場面

- ス〔SI〕：〈TK〉（40代、〔SI〕の働く会社の社長）。その日の社長の行動についての打ち合わせ。
- セ〔HO〕：〈MI〉（40代、印刷会社部長）。〔HO〕の編集する雑誌の印刷発注に関する話し合い
- ソ〔HI〕：《TG》（30代）、〈OD〉（50代）、〈AS〉（50代）（いずれも、〔HI〕の同僚）。〔HI〕が司会をして進める職員会議。その日の保護者会の進め方について話し合う。
- タ〔SO〕：《HH》（50代）、《MK》（50代）、《TC》（40代）、《SN》（50代）、〈TO〉（60代）、〈YU〉（60代）、〈IN〉（50代）（いずれも〔SO〕の同僚）。学科主催で開くシンポジウムの当日の分担などについての打ち合わせ。
- （以下場面はア～タで、話者は〔SI〕《IR》などと記す）

1-2 語種と場面・性別

女性の話しことばの中で使われることばの語種については谷部（1994）が、その場面差を中心に報告している。すなわち、くつろいだ場面（朝・休憩）とあらたまった場面（会議）での漢語使用の差が大きく、延べ語数より異なり語数の方がその差が大きい、という。

今回は、男女が加わっているいくつかの場面で、それぞれの場面の中で使用語種の比率に性差があるのか否かを調べた。

採集方法と基準は谷部に準じる。

会議の場面4と、朝・休憩の場面4のそれぞれの話者の使用語彙を約300語とり（発話数の少ない話者はそれに達していない）語種別の比率をみた。

（表1）（表2）

延べ語数の中で、全話者の平均は朝・休憩では和語78.1%、漢語18.2%、外来語2.6%、混種語1%である。会議ではそれぞれ69.9%、26.5%、2.2%、1.3%で会議の方が漢語の比率が高くなっている。

朝・休憩の場面のア、イでは、女性話者が男性話者より和語をやや多く、漢語をやや少なく使っているが、ウの場面では男性話者が女性話者より和語をやや多く、漢語をやや少なく使っている。ウの男性話者<OZ>の漢語比率が低いのは、この話者の外来語使用が7.6%とどの話者よりも多くきわだった使い方をしていることと関係がある。ウの〔TM〕と<OZ>は、コンピューターの操作をめぐる同じ立場で同じ話題について話し合っているため、話者間の差がほとんど出ていない。

キ、は〔HI〕と<ME><HR>を平均したものとほとんど差がない。

この4つの場面の女性4人、男性6人の使用語種を性別にまとめて平均してみると（表3）、性差はほとんど表われない。従来その使用率が低いとされる漢語もここでは男性よりわずかに上回っているほどである。

会議の場面についてみると、スの〔SI〕と<TK>では使用語種にかなり開きがある。和語使用率で〔SI〕と<TK>の差が7.3%、漢語でも8.1%開いている。これは〔SI〕が雇用主である<TK>との談話に敬語を加

表 1 使用語種（延べ語数）

場面		話者	和 語	漢 語	外来語	混種語	計
I 朝・休 憩	ア	〔HO〕	% 241 (81.1)	% 48 (16.2)	% 7 (2.4)	% 1 (0.3)	297(100)
		<YA>	217 (77.8)	55 (19.7)	5 (1.8)	2 (0.7)	279
	イ	〔HI〕	230 (79.0)	55 (18.9)	3 (1.0)	3 (1.0)	291
		<FU>	185 (75.2)	52 (21.1)	6 (2.4)	3 (1.2)	246
		<MA>	97 (77.0)	23 (18.3)	3 (2.4)	3 (2.4)	126
	ウ	〔TM〕	244 (73.9)	75 (22.7)	8 (2.4)	3 (0.9)	330
		<OZ>	245 (74.5)	56 (17.0)	25 (7.6)	3 (0.9)	329
	キ	〔HI〕	248 (82.1)	48 (15.9)	1 (0.3)	5 (1.7)	302
<ME>		228 (79.4)	53 (18.5)	3 (1.0)	3 (1.0)	287	
<HR>		108 (84.4)	12 (9.4)	6 (4.7)	2 (1.6)	128	
II 会 議	ス	〔SI〕	217 (78.9)	46 (16.7)	7 (2.5)	5 (1.8)	275
		<TK>	159 (71.6)	55 (24.8)	5 (2.3)	3 (1.4)	222
	セ	〔HO〕	245 (72.3)	76 (22.4)	10 (2.9)	8 (2.4)	339
		<MI>	235 (71.9)	68 (20.8)	12 (3.7)	12 (3.7)	327
	ソ	〔HI〕	210 (68.2)	85 (27.6)	3 (1.0)	10 (3.2)	308
		《TG》	108 (62.8)	61 (35.5)	1 (0.6)	2 (1.2)	172
		<OD>	86 (55.1)	68 (43.6)	2 (1.3)	0 (0)	156
	タ	〔SO〕	182 (75.5)	50 (20.7)	8 (3.3)	1 (0.4)	241
		《TC》	188 (63.1)	98 (32.9)	12 (4.0)	0	298
		《HH》	223 (74.6)	65 (21.7)	10 (3.3)	1 (0.3)	299
		《SN》	72 (70.6)	29 (28.4)	1 (1.0)	0	102
		《MK》	115 (66.1)	57 (32.8)	2 (1.1)	0	174
<TO>		204 (73.6)	71 (35.6)	2 (0.7)	0	277	
<YU>		133 (66.8)	61 (30.7)	3 (1.5)	2 (1.0)	199	
<IN>		207 (67.9)	88 (28.9)	4 (1.3)	6 (2.0)	305	

表 2 使用語種（異なり語数）

場面		話者	和 語	漢 語	外来語	混種語	計
I 朝・休 憩	ア	{HO}	%	%	%	%	%
		<YA>	90 (75.0)	24 (20.0)	5 (4.2)	1 (0.8)	120(100)
	イ	{HI}	82 (67.2)	35 (28.7)	3 (2.5)	2 (1.7)	122
		{HI}	125 (75.3)	36 (21.7)	3 (1.8)	2 (1.2)	166
		<FU>	108 (73.0)	35 (23.6)	2 (1.4)	3 (2.0)	148
	<MA>	56 (76.7)	12 (16.4)	2 (2.7)	3 (4.1)	73	
	ウ	{TM}	106 (68.8)	41 (26.6)	5 (3.2)	2 (1.3)	154
		<OZ>	87 (64.0)	34 (25.0)	13 (9.6)	2 (1.5)	136
キ	{HI}	115 (76.7)	31 (20.7)	1 (0.7)	3 (2.0)	150	
	<ME>	114 (69.1)	46 (27.9)	3 (1.8)	2 (1.2)	165	
	<HR>	64 (79.0)	11 (13.6)	4 (4.9)	2 (2.5)	81	
II 会 議	ス	{SI}	109 (75.9)	28 (19.4)	4 (2.8)	3 (2.1)	144
		<TK>	83 (62.9)	41 (31.1)	5 (3.8)	3 (2.3)	132
	セ	{HO}	110 (65.1)	50 (29.6)	6 (3.6)	3 (1.8)	169
		<MI>	119 (64.3)	53 (28.6)	7 (3.9)	6 (3.2)	185
	ソ	{HI}	97 (58.4)	59 (35.5)	3 (1.8)	7 (4.2)	166
		《TG》	55 (56.1)	41 (41.8)	1 (1.0)	1 (1.0)	98
		<OD>	66 (63.5)	37 (35.6)	1 (1.0)	0 (0)	104
	タ	{SO}	86 (69.9)	32 (26.0)	5 (4.1)	0 (0)	123
		《TC》	86 (51.8)	73 (44.0)	7 (4.2)	0 (0)	166
		《HH》	121 (71.2)	39 (22.9)	9 (5.3)	1 (0.6)	170
		《SN》	50 (69.4)	21 (29.2)	1 (1.4)	0 (0)	72
		《MK》	66 (59.5)	43 (38.7)	2 (1.8)	0 (0)	111
<TO>		82 (60.7)	51 (37.8)	2 (1.5)	0 (0)	135	
<YU>		67 (55.8)	48 (40.0)	3 (2.5)	2 (1.7)	120	
<IN>		99 (57.6)	65 (37.8)	4 (2.3)	4 (2.3)	172	

えていること（「お」や「～いただく」などが多い）と、＜TK＞の指示に対して「はい」「ええ」などの応答詞を多く用いているためである。

セ、では、和語使用率で〔HO〕が＜MI＞よりやや高いが、漢語使用率でも＜MI＞よりやや高くなっている。他方、＜MI＞は外来語、混種語の使用が〔HO〕より多い。和語、漢語の使用率においてはほとんど差がないといえる。

ソ、では〔HI〕と＜OD＞との間には、和語使用率、漢語使用率ともかなり開きがある。これは、〔HI〕が会議の進行を担当して応答詞や指示語を多用しているのに対して、＜OD＞は求められる問いに数字を多く使って応えているためである。このことは、会議のもう一人の参加者《TG》に和語が少なく漢語が多いことも共通する。＜OD＞と〔HI〕、《TG》の違いは以下の例①～③のように、発話の際、「まあ」「あの」「ちょっと」などの前おきのことばをおいてから中心的话题に進める〔HI〕、《TG》と、直接、話題の中心になることばで言い始める＜OD＞との違いである。

- ① でもまあ、だいたいこうゆうような線で一、あの一、とにかく厳しいとゆうことと、まあ、あの……でお話をしようと思っております

（ソ〔HI〕）

- ② うん、これね一、あとでちょっと、あの、遅刻の数え方とか確認をしたいんだけど。（ソ《TG》）

- ③ 保護者会用。（ソ＜OD＞）

タ、の会議には、女性話者5人、男性話者3人が参加しているが、これらの話者を性別にして平均を出してみると（表3）ほとんど差がないことがわ

表3 場面タの性別話者平均

	和 語	漢 語	外来語	混種語
女性話者平均	70.0%	26.8%	3.0%	0.2%
男性話者平均	69.7%	28.2%	1.2%	1.0%

かる。個々の話者では《TC》の漢語比率が44.0%で8人の話者の中で群を抜いて高く、《HH》は22.9%と《TC》の約半分の使用率である。《TC》の話題は、シンポジウムの資料に関するものが多く

④ 出したデータはその何短期大学の進学率の推移と一、それから第一次大学生の関係学科別分布ですね。(タ《TC》)

のような漢語の多い発話をしている。一方《HH》は

⑤ わたくしがあの一 ××に行ってお話を聞いてきておもしろかった点はあの一 アメリカやイギリスの大学にいてみると、あの一 日本の女子学生はずいぶん勉強して 一生懸命勉強している、と。

で、それはなぜかって男の学生の方が少ない。なぜかって言えばやはり……(タ《HH》)

のように、つなぎことば「あの一」を多用し、事実を述べてそれを「なぜかって」と2度もことわった上で理由を述べるという丁寧な話し方をしている。そのため和語が多くなっている。

同じ会議の中の女性の話しことばでも《TC》と《HH》のような差が出るのは、話題の内容と、話し方の個性が異なるからである。

会議の場面の会話者の性別の使用語種の平均(表3)では、朝・休憩の場面よりは性差がみられるが、それでも2%の差でしかない。

異なり語数で見ると(表2、表4)延べ語数に比べてたいていの話者は漢語比率が上がり、和語比率が下がる。女性話者平均で会議の場面で和語70.7%→64.0%、漢語25.7%→31.7%。朝・休憩で和語78.9%→73.9%、漢語18.5%→22.4%、男性話者平均の会議の場面で和語68.9%→60.8%、漢語27.7%→34.8%。朝・休憩の場面で和語77.4%→70.5%、漢語18.0%→23.9%と変化している。変化の幅は男性話者の方がやや大きい。このことは、女性の方が異なり語数への減り方が大きいことを示している。つまり先の《HH》の話し方でみたような、前おき、つなぎことばなど同じことばを使う例が女性に多かったということである。

表 4 使用語種、性別話者平均（延べ語数）

		和 語 %	漢 語 %	外来語%	混種語%	計
Ⅰ 朝・休憩	女性話者合計	963(78.9)	226(18.5)	19 (1.6)	12 (1.0)	1220
	男性話者合計	1080(77.4)	251(18.0)	48 (3.4)	16 (1.1)	1395
Ⅱ 会議	女性話者合計	1560(70.7)	567(25.7)	54 (2.4)	27 (1.2)	2208
	男性話者合計	1024(68.9)	411(27.7)	28 (1.9)	23 (1.5)	1486

表 5 使用語種、性別話者平均（異なり語数）

		和 語 %	漢 語 %	外来語%	混種語%	計
Ⅰ 朝・休憩	女性話者合計	436(73.9)	132(22.4)	14 (2.4)	8 (1.4)	590
	男性話者合計	511(70.5)	173(23.9)	27 (3.7)	14 (1.9)	725
Ⅱ 会議	女性話者合計	780(64.0)	386(31.7)	38 (3.1)	15 (1.2)	1219
	男性話者合計	516(60.8)	295(34.8)	22 (2.6)	15 (1.8)	848

<OD>と<MA>が異なり語数の場合の方が和語比率が増え、漢語比率が減って全体と逆の結果を出しているのは、<OD>は推薦の成績の基準となる数字と「遅刻」「保護者会」などの同じ漢語を何度も繰り返していることによる。<MA>は「女房」4回「10分」3回など同じ漢語を重ねて使用し、異なり語数は延べ語数の半分に減っているためである。

谷部（1994）では、女性4人の朝・休憩の場面（Ⅰ）と会議の場面（Ⅱ）

の使用語種を報告しているが、その4人の使用比率と、今回の延べ13名の女性の平均とを比較してみる。

	場面	和 語	漢 語	外来語	混種語	計
谷部調査	I	833 (77.6)	195 (18.2)	30 (2.8)	15 (1.4)	1073
今回調査	I	963 (78.9)	226 (18.5)	19 (1.6)	12 (1.0)	1220
谷 部	II	734 (65.8)	351 (31.5)	21 (1.9)	9 (0.8)	1115
今 回	II	1560 (70.6)	567 (25.7)	54 (2.4)	27 (1.2)	2208

IIのあらたまった場面での和語使用比率、漢語使用比率に約5%の開きがあるが、くつろいだ場面Iでの使用語種比率にはほとんど差がない。IIの差は谷部調査の対象とした会議と、今回対象とした会議の話題の差によるものであろう。

また中野(1987)では、女性は男性に比べて和語の使用率が高い、女性の方が外来語の比率が高いと、従来いわれているとおりの傾向がみられたと報告しているが、今回の調査では、個々のケースで女性が和語の使用率が高い例はみられたが、延べ語数の平均ではほとんど差がみられなかった。外来語の比率もあらたまった場面では女性がやや高く、くつろいだ場面では男性の方が高くなっていて、女性の外来語使用比率が高いとはいえないという結果を得た。

いくつかの場面のうち、男性・女性が同じくらいの人数で参加しているものの8場面についてその語種使用に性差がみられるか否かを中心に考察した。

従来、女性の漢語使用は男性に比べて低いとされてきた。それは、女性の

漢語使用は好ましくないとする伝統的価値観の反映でもあった。しかし、今回の職場の女性の話しことばにみる限りでは、それほど明確な性差が見られなかった。差異は、話者間の関係 — 敬語をどちらが多く使うかなど — 、場面とそれに伴う話題によって生じることの方が多いと考えられるのである。

2 新しいことばと、新しい用法

従来になかった語形や用法について、ことばの「乱れ」や若者ことばとして問題にされることが多い。ここでは、そのいくつかについて、それらが現在の女性の話しことばの中にどう取り入れられているのかを考察する。

2-1 「やはり」「やっぱり」「やっぱし」「やっぱ」

これらの副詞グループは「やはり」をもととして派生した「やっぱり」からさらに変化して「やっぱし」「やっぱ」となったものである。

「やっぱし」「やっぱ」は比較的新しい語形であるが、2、3の国語辞典ではすでに採録されている。『三省堂国語辞典第4版』（三省堂、1992 以下『三国4』）は

やっぱ（副）〔俗〕 やっぱり。

やっぱし（副）〔俗語〕 やっぱり、やはり、やっぱ。

のように記述している。同辞書第3版（1982）は

やっぱ（副）〔方〕 やっぱり。

やっぱり〔：矢つ：張り〕（副）「やはりの気持ちを強めた言い方。〔俗〕
やっぱし。

としていたのが、4版で「やっぱし」も見出し語として立てるようになり、「やっぱ」を方言から俗語へと改めたことになる。第2版（1974）は「やっぱり」は第3版の記述と全く同じだが、「やっぱ」は立項されていない。

『新選国語辞典第7版』（小学館、1994以下『新選7』）は

やっぱり【やっぱり】〔矢っ張〕副→やはり。参考 「やっぱし」「やっぱ」などは、くずれた言い方。

としている。同辞書第6版(1987)には

やっぱり【やっぱり】〔矢っ張〕副→やはり。

とだけ記され、「やっぱし」「やっぱ」には触れられていない。

このように「やっぱし」「やっぱ」は新しい語形で、「俗語」、「くずれた言い方」とされるものであるが、それらがどのように使われているか、「やっぱり」「やはり」との比較の上でみていく。「やはり」は「やっぱり」以下を派生した元の語である。「やっぱり」以下がその強調形であるという点で、レベルは異なるが、丁寧度や文体差をみるには同一線上に並ぶものでもあるので、同じ考察の対象にする。

今回のア～タまでの場面の談話の中で使われたこの語群の語を話者別、年代別に示したのが表6、表7である。

「やはり」は<MI>に1例みられるだけで、話しことばで使われることがきわめて少ないことがわかる。

それ以外の3語の、女性の中での使われ方は「やっぱり」58.5%「やっぱ」35.8%「やっぱし」5.7%で、標準的な語形「やっぱり」が半数以上を占めているが、20代では「やっぱ」がいちばん多く使われている。30代も「やっぱ」と「やっぱし」を合わせると「やっぱり」より多い。50代以上は「やっぱり」が圧倒的に多い。

この3語は朝・休憩の場面で使われることが多く、会議での例は少ない。しかし、あらたまった場面で使われる例はある。

- ⑥ ……介護休業のみ場合には、企業などがやっぱ、人事労務の人が、なんか証明書かなんかもらって、それで、判断しなきゃいけませんから。

(カ《IR》)

表6 「やっぱし」「やっぱ」などの話者別使われ方

			I 朝・休憩				II 会議			
			やはり		やっぱり		やっぱし		やっぱ	
			I	II	I	II	I	II	I	II
女性	20代	〔WA〕 〔SI〕 《OE》 《SA》 《NO》 《KI》			1 2 3 1				1 3 2 2	
	30代	〔HI〕 〔HO〕 《OT》			1 4	1	1 1		1 3	1
	40代	〔TM〕 〔HA〕 《IR》			3 4 2		1		1 1 3	
	50代	〔SO〕 《HH》 《AK》			7 1 1	1			1	
		計			28	3	3	0	18	1
男性	30代	<OZ>			3					
	40代	<MI>		1		1				
	50代	<IN>				2				
	60代 不明	<ME>			1 1				1	
		計		1	5	3			1	

表7 「やっぱし」「やっぱ」などの年代別使われ方

		やはり		やっぱり		やっぱし		やっぱ	
		I	II	I	II	I	II	I	II
20代				7				8	
30代				8	1	2		4	
40代			1	9	1	1		5	1
50代				8	4			2	
年代不明					1				

カ、は会議ではなくインフォーマント〔S O〕にとっては朝のくだけた場面であるが、訪問して審議会委員を引きうけてもらうよう頼む側の《I R》にとっては、あらたまった場面である。話題も「介護休業」「人事労務」などの専門用語を含んだ非日常的なものである。その中で「やっぱ」を3回用いているということは、《I R》の意識の中で「やっぱ」は「俗語」とか「くずれた」語ではなく、一般の日常語ととらえられているということなのであろう。

〔H I〕は「やっぱ」を2回、「やっぱし」を1回使っているが、「やっぱり」の例はない。〔H I〕は会議でも「やっぱ」を使っている。

20代の〔S I〕も「やっぱ」しか使っていない。30代の〔H O〕も「やっぱ」の方が多い。これらの話者にとっては「やっぱり」より「やっぱ」の方が一般的な語彙になっているのであろう。

男性の場合は全体で「やっぱり」8例、「やっぱ」が1例で、くだけた形を使う例は1例しかない。男性の話者が少ないこと、20代の男性の話者がいないことなどの理由も考えられるが、今回の調査対象の範囲では、女性の方がくだけた語形を多く使っていると言える。「やはり」の1例も男性の会議の中での使用例であった。

2-2 「ぜんぜん」の「肯定用法」

副詞「ぜんぜん」は

⑦ わたし、ぜんぜんわかってないんで……（セ〔H O〕）
のように否定のことばと呼応して用いられることばであるが、

⑧ ボロくそ安いんなら、ぜんぜんいいんだけど。（コ〔S I〕）
のように、肯定のことばと呼応する用法も（以下「肯定用法」とする）もみられるようになり、用法のゆれていることばのひとつである。

『三省堂現代国語辞典第2版』（三省堂1992、以下『三現国2』）は、「肯定用法」を語義のひとつに加えて次のように記している。

ぜんぜん〔全然〕（副）①少しも。まるで。「— わからない」

用法 ふつう、下に打ち消しの語がくる。②まったく
「— 反対のことを述べる」③〔俗語〕とても。非常に。
「— すばらしい」

『新選7』は、「肯定用法」に 参考 でふれている。
ぜんぜん〔全然〕 副 程度を全面的に否定することば。すこしも。まっ
たく。まるっきり。「— おもしろくない」「— だめ
だ」 参考 下に打ち消しや否定的な語がくる。古くは
「— 正しい」のように、完全に、の意味にも使ったが、
現在はほとんど使わない。また、話しことばでは「—
おもしろい」「— すてきだ」のように「非常に」「と
ても」の意味に使うこともあるが標準的とはいえない。

なお、同辞書第6版の 参考 は「下に打ち消しの言い方がくるのが標準
的」とだけ記されている。

今回の話しことばの調査の中の「ぜんぜん」はどのような姿をとっている
だろうか。

「ぜんぜん」の使用例は36例あったが、これを『三現国2』の扱いになら
って①～③に分け、その話者の年代別にまとめる（表8）。

表8 「ぜんぜん」の年代別使われ方

	①「ぜんぜんわからない」など	②「ぜんぜんだめ」など	③「ぜんぜん良い」など
20代	10	2	4
30代	12	2	2
40代	2	1	0
50代	0	1	0
計	24	6	6

②のような、「ぜんぜん」と、否定的な意味の語が肯定形で呼応する使い方が橋わたしとなって、③のような用法が生まれてきたと思われるが、この数値の分布はその姿をよく反映している。

③の用法は〔S I〕に4例、〔H O〕に2例使われており、今回の調査の37名中ではこの2名だけであった。20代の話者でケ、で《S A》が7回、ア、で《K I》が3回、「ぜんぜん」を使っているが、この2人に③の用法のものはない。

逆に〔S I〕は③の用法で4回用いているが、①②の用法のものはない。

30代の〔H O〕は③の用法で2回使っているが、①の用法が9回ある。〔H O〕は否定と呼応するものと、肯定と呼応するものの両方を使っていることになる。

40代以上には、③の使い方をしている例はない。〔俗語〕「俗に」と辞書類は記しているが、この語はどの年代にもわたるのではなく、若い世代の中の「俗語」として使われているものだと考えられる。

2-3 「すごい」の「連用用法」

形容詞「すごい」は、若い人のあいだで、「すごく〜」と誇張や強調して使われること、また、どんな場合でも「すごくおいしい」、「すごくきれい」と「すごく」ですませてしまう単純な用法の例として話題にされてきた。さらに最近では「すごい安い」のような、連用形にすべきところを基本形のまま使う用法（以下「連用用法」とする）が増えていることが問題とされている。

『新明解国語辞典第4版』（三省堂、1989）にもつぎのように記されている。

すごい〔凄い〕（形）①省略 ②語釈略「— 腕前。わあ — 。 — きれい
〔=すごくきれいの俗な表現〕」

『新選国7』も 参考 で「用言につづくときは『すごく大きい』のよう
にいうのがふつう。話しことばでは、『すごい大きい』『すごいきれいだ』の

ようにいうこともあるが、一般的ではない。」と述べている。この 参考 の記述も第6版にはなく、7版で加えられたものである。93年に初版を刊行した『集英社国語辞典』には、この種の「すごい」の「連用用法」についての記述はない。

さて、今回の談話資料でも、いくつかの「連用用法」を採集している。「すごい」「すごく」の使用例は全部で28例あったが、その中で

⑨ 何かすごい仲よくなったみたいで。(ケ《SA》)

のような例が11例あり、

⑩ すごく熱心なんですよ。(カ《SO》)

のような本来の用法は12例であった。「俗な」とか「一般的でない」とされる用法が、本来の用法とほぼ同数に迫っていることがわかる。

年代別では「連用用法」に「すごい」を使った11例すべて20代女性で、他の年代にはいない。また、「すごく」を使っているのは30代10例、50代2例で、「すごく」を使う20代はいない。

この用法は若い世代にかたよっていて、上の世代にまではひろまっていならしいことが窺われる。

2-4 「とか」の「ボカシ」用法

最近の若者ことばが論じられるとき、必ずとり上げられることばに「とか」がある。93年8月25日付『毎日新聞』の「若者ワードウォッチング」にも「…俗に『とか』弁と言われる「何何とか」言葉と『～みたいな』『なんか』を乱用する。たとえば『親ナンカはそんなアルバイトやめろトカ言う』と記している。

『新選7』にも

とか〔副助詞〕①ものごとをならべあげたり、例示したりする。「月には空
気 — 水 — というものはない」②不確かなことを伝える場合に使う。

「九十何歳 — でなくなったそうだ」 参考 ①は「並立助詞」と呼ぶこともある。近年は「テレビとか見て寝かせた」のように、はっきりさ

せずにばかりで言う使い方がめだつ。

と記されている。なお、この **参考** は同辞書第 6 版には「①は「並立助詞」と呼ぶこともある」だけで、近年の用法については触れていない。

『三国 4』は、副助詞と連語の 2 項目を立てている。

とか〔副助詞〕①例をあげる・（ならべて言う）ときに使う。「1 — 2 — いう数」②どれか一つをえらぶときに使う。「いい — 悪い — 、返事をなさい」

とか〔連語〕①はっきりしていないことをあらわす「木村さん — いう人」②聞いたことが事実がどうかははっきりしいなことをあらわす。とかいうことだ。「もう行った — 」③〔俗〕〔「に」「へ」「を」「は」の意味をばやかして言う〕にでも、など。「ディスコ — 行って、ハンバーガー — 食べない？」

この連語の③が現在問題にしている「とか」にあたるが、この部分は、同辞書の第 3 版にはない。

また、『広辞苑第 4 版』（岩波書店、1991）には

とか ①（並立助詞〔ト〕に並立助詞〔カ〕のついたもの）①例示し列挙するのに用いる語。例示する事項のあとに一々「とか」を付けるのが本来の使い方だが、最後の例示のあとに付けないことがある。「雨 — 雪 — 」
「地位 — 名誉には関心がない」②一つの物事だけを挙げ、他を略して言う。または、それと特定しないで言う表現。近年の用法。「コーヒー — 飲んだ」②（格助詞「と」に副助詞「か」の付いたもの。多く、言う「聞く」などを伴う）内容が不確かである意を表す。「うまくいった — いうことだ」「結婚した — 」

なお、この前の版である第 3 版（1983 年）には、この助詞「とか」自体が採録されていない。

手もとの 3 辞書で「とか」の用法を引いた結果、「とか弁」とジャーナリ

ズムでとりあげている用法が、すでに国語辞典でこの10年の間に認知されていることがわかった。

並立助詞についても「— とか — とか」と「とか」を重ねる用法のほか、最後の「とか」をつけないこともあると示され、また、不確かなことを伝える用法もすでに以前からあるということであれば、

⑩ 審議会とかで審議するときに……（カ《IR》）

のような使い方が出てくるのも自然のなりゆきであったことが理解される。

今回の談話資料の中で用いられた助詞、連語の「とか」の状況は以下のとおりである。

まず、採集した「とか」をその使い方で次の4つに分類した。

① えーと、台湾とか中国とか親に連れられていったぐらいで……

（ケ《SA》）………並立の用法

②-a 何かこのごろうるさくない？とか言って（ケ《SA》）

②-b ニョッキとかいうの作ったんですよ（サ《NO》）

………引用と不確かである意を表わす用法

③ けっこうおじいさんとかも、こんなパフェとか食べてますよねー

（サ《NO》）………ほかす用法

④ 病院に入院の患者さんみてまわったりとかですね。（カ《IR》）

………タリトカの用法

それぞれの用法の例数を話し手別に示す。（表9）

この表から以下のようなことがわかる。（男性の使用例が少ないため、女性の使い方を中心にみていく）

②は「と」を用いて「～と言う」とはっきり言い切るのを避け、「か」をつけ加えてあいまいにした用法である。③も、「おじいさん」「パフェ」だけに限定せずに余韻を残した表現であり、④も「— たり」で例示した事実でとどめずにさらに「とか」をつけてあいまいにした用法で、②～④はいずれもほかす用法（「ボカシ」の用法とする）である。①の並列の明示の用法（「明示」の用法とする）と、②～④の「ボカシ」の用法とを量的にみると、

「ボカシ」が「明示」の約3.5倍である。これを年代別にまとめてみると（表10）のようになる。

表9 話者別「とか」の使われ方

			①並列の 用法		②引用・不 確かな用法		③ボカシの 用法		④タリトカ の用法	
			I	II	I	II	I	II	I	II
女性	20代	[WA] [SI] 《OE》 《SA》 《NO》 《KI》	2 1 1		2 1 5	1	1 6 8 8 6 2		1 2 1	
	30代	[HI] [HO] 《OT》	5 1	1	2		1 4 1	1		
	40代	[TM] [HA] 《IR》 《TC》	1 14		1		4 3 8	1 4	1	
	50代	[SO] 《HH》 《MK》 《AK》	9 2			1 1 2	2 2 2	2 1		
		計	36	2	20	5	56	9	5	
男性	30代 40代 50代 ～	<OZ> <MI> <IN> <TO> <YU> <ME>		3 1	1	1	1	1 1		
		計		4	1	1	1	2		
		総計	36	6	21	6	57	11	5	

表10 年代別の「明示」と

「ボカシ」用法

	①	②～④
20代	4	53
30代	7	9
40代	16	22
50代	11	11
	38	95

20代は「ボカシ」用法が圧倒的に多く、30代、40代も「ボカシ」の方がやや多い。50代では並列の「明示」と「ボカシ」が同数である。

このことを、各世代で「とか」を多く使っている個人についてみると、20代の《OE》は16例も使っているがすべて「ボカシ」の用法。30代の

〔HO〕は「明示」が6例、「ボカシ」が7例とほぼ同数。40代の《IR》は「明示」14例、「ボカシ」9例で両方よく使うが「明示」の方が多い。50代の〔SO〕は「明示」9例、「ボカシ」3例で、後者を使うことが少ない。

この4人の「とか」の使い方の差に、「とか」の「近年の用法」の浸透の様子がうかがわれる。

次に場面別の使われ方をみるため、朝・休憩（Ⅰ）と会議（Ⅱ）の両場面に参加している話者で比べてみた（表11）。ここでは、「ボカシ」の用法が

会議ではほとんど使われていないことがわかる。「ボカシ」の用法は「俗な」用法だとの意識が話者たちの間に存在しているのであろう。

表11 場面別の「明示」と

「ボカシ」の用法

	①		②～③	
	I	Ⅱ	I	Ⅱ
〔SI〕	0	0	7	1
〔HI〕	0	0	1	0
〔HO〕	5	1	6	1
〔SO〕	9	0	2	1

男性については例数が少ないので判断できないが、「明示」と「ボカシ」のそれぞれの使用例は4例対5例でそれほど差がなかった。この傾向を女性の「ボカシ」が「明示」

の 3.5 倍で「ボカシ」の例が圧倒的に多かったことと比較すると、男性の方が「ボカシ」用法の使用率が少ないことが推測される。ただし、男性に 20 代の話者がいないこと、男性の発話数が少ないことからこれはあくまでも推測の域を出ない。

「とか」の「ボカシ」用法は、若者ことばの代表のように伝えられ、94 年 10 月 9 日 NHK ラジオの「ラジオ公園通り」の『危うし若者ことば!』の番組でも話題にされていた。しかし、『広辞苑 4』が「俗」とも「一般的でない」とも注記せず「近年の用法」と記述しているように、若者ことばの域を超え、女性の中年世代に着実に浸透していることが明らかになった。

— まとめ —

1 の使用語種については、延べ語数では、職場での話しことばにみるかぎり、性差は明確にできなかった。異なり語数では和語使用率が女性がやや高く漢語使用率が男性がやや高かった。外来語の使用率に差はみられなかった。

2 では、新しい語形や用法を年代との関係で考察した。今回考察した 4 種のものうち、「やっぱ」は 40 代にも広がっているが、「やっぱし」は『三国』には 70 年代から〔俗〕として記載されているが、「やっぱ」ほど使われていないこと、「とか」の「ボカシ」用法は 50 代にまで使われていること、その反面「ぜんぜん」の「肯定用法」と「すごい」の「連用用法」は 20 代は多いがそれ以上の年代にはあまり使われていないこと、が明らかになった。新しい語形や用法の受容にはそれぞれの条件や段階があることが想定されるが、今回はその内部に立ち入ることはできなかった。

<参考文献>

谷部 弘子「談話場面と漢語使用について」（『職場における女性の話しことば』現代日本語研究会、1994）

中野 洋「話しことばの語種の調査」（『計量国語学と日本語処理』水谷 静夫教授還暦記念会、1987）

（文教大学）